

## 2015年の回顧と2016年の展望

**景気低迷期だから見えてくるビジネス機会  
～経済回復期はいつか？ 日系企業はどう備えるか？～**

**運輸サービス部会 細谷 浩司**

**2016年2月25日**

# 運輸サービス部会の対象業界

- **物流**
- **構内物流・機工・整備**
- **海運**
- **航空貨物**
- **航空旅客**
- **旅行、ホテル**
- **通信、IT**



# 物流業界

## 2015年回顧

- ・ 港湾関係ではペーパーワークを減らし省力化が進みつつある。
- ・ 10年間凍結していたサントス港湾諸料金が31.7%値上。(5月より)

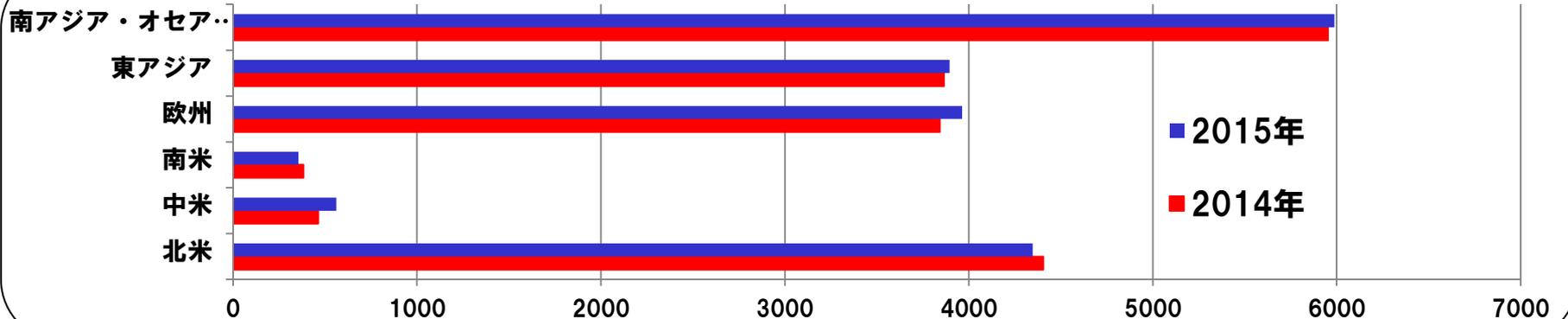
## 2016年展望

- ・ 税関スト継続により審査は部分的に停滞。
- ・ 梱包木材規制強化等、輸入通関は審査、検査が厳しくなると予測。
- ・ レアル安からくる輸出の活性化に期待。
- ・ 引越の荷動きを見る限り、日本人駐在員数は減と予測。

日本発 各地域向け船便引越件数動向

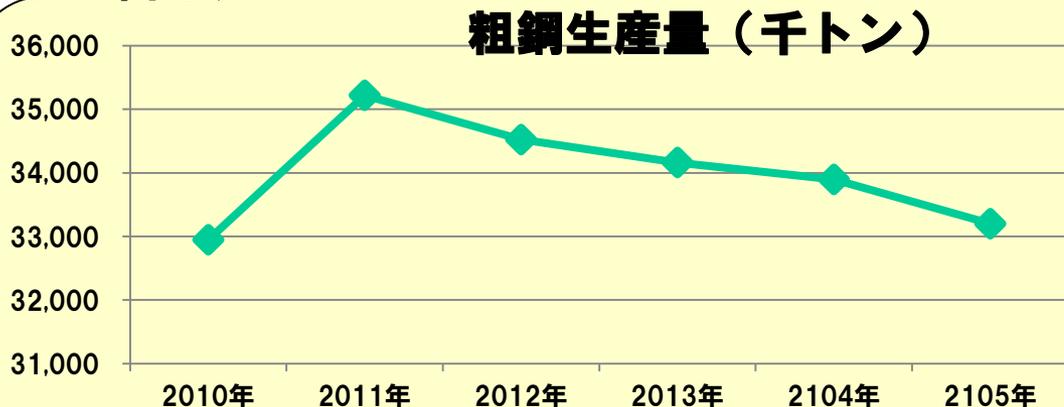
(単位 発送件数)

資料提供：日通



# 鉄鋼業界内：機工・整備・構内物流

## 2015年回顧



鉄鋼業界はコスト維持の為に給与インフレ調整率を公定インフレ率の0%から60%程度の調整率で交渉中。

## 2016年展望

高炉メーカーの資金繰り悪化に伴い、今後さらに厳しい状況が継続する事は確実、経営環境もさらに悪化、最低4年間はこの状態は継続するとの前提で、その先を見た経営体制の確立が勝負となると考えている。

2015年国内生産量は前年比▲1.9% 33.2百万トン 生産能力の66.4%に留まる。

2015年国内販売は前年対比▲16.1% 18.2百万トン、2015年12月単月で前年比▲26.1%。

2015年国内消費量は前年比▲16.7% 21.3百万トン、2015年12月単月で前年比▲28.2%。

熱延コイル	Jan	Dez	価格低下率%
輸入FOB価格	US\$531	US\$285	-46%
ブラジル工場FOB価格	US\$832	US\$410	-51%



## 世界粗鋼生産量ランキング（千トン）

Group	Jan~Nov		15/14	2015年 シェアー
	2015	2014	%	
中国	738,380	754,990	-2.2%	50.2%
E.U.(28)	154,482	156,845	-1.5%	10.5%
日本	96,564	101,667	-5.3%	6.6%
C.E.I.	92,883	97,273	-4.7%	6.3%
米国	73,138	80,964	-10.7%	5.0%
Brasil	30,784	31,274	-1.6%	2.1%
その他	285,172	290,136	-1.7%	19.4%
Total	1,471,403	1,513,149	-2.8%	100%

# 海運業界

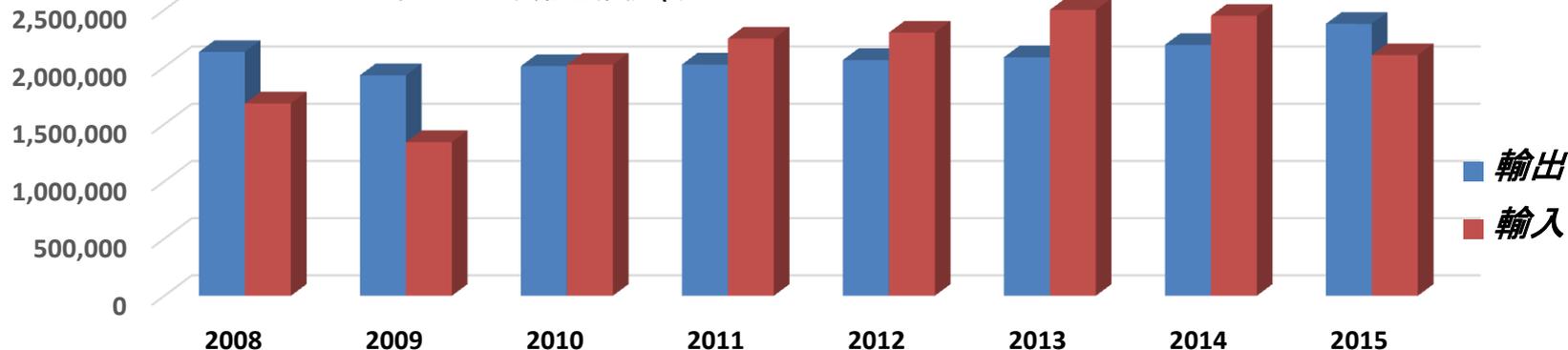
## 2015年回顧

- ・ コンテナ船はブラジル経済不調・レアル安の影響により前年同期比にて**輸入が14%減少、輸出は8%の増加、輸出入合計の全体の物量では3.4%の減少となった。**  
ブラジル全体では2009年以来6年ぶりに輸出量が輸入量を超えた。  
輸入貨物量減少の為、特にアジア-南米東岸トレードの運賃レベルは記録的な低レベルまで下落した。
- ・ 不定期船は中国向けの鉄鉱石輸出量が前年比で約20%増加するも、大型鉄鉱石運搬船ヴァーレマックス（40万トン船型）の稼働率上昇もあり、船腹供給量大幅超過の状態となりケーブサイズ船の傭船料市況は歴史的低水準まで下落。

## 2016年展望

- ・ コンテナ船はレアル安とブラジル経済不調の影響を受けて輸入の停滞傾向は昨年に引続き暫し続く見込み。レアル安は輸出には追い風だが、中国を始めとして輸入国側の経済減速による買い付け量の減少が輸出量の伸びに影響を与える可能性もある。
- ・ 不定期船は運賃市況が運航コストを大幅に下回る水準にある為に係船される船腹が増加傾向にある。一方で今年新たに竣工する新造船も控えており、マーケットがどの程度反発するかは不透明である。
- ・ 需要減と資金難により、新たな港湾整備や拡張計画の進展が遅れる可能性がある。

ブラジル外航コンテナ貨物量推移 (単位 TEU)



# 航空貨物業界

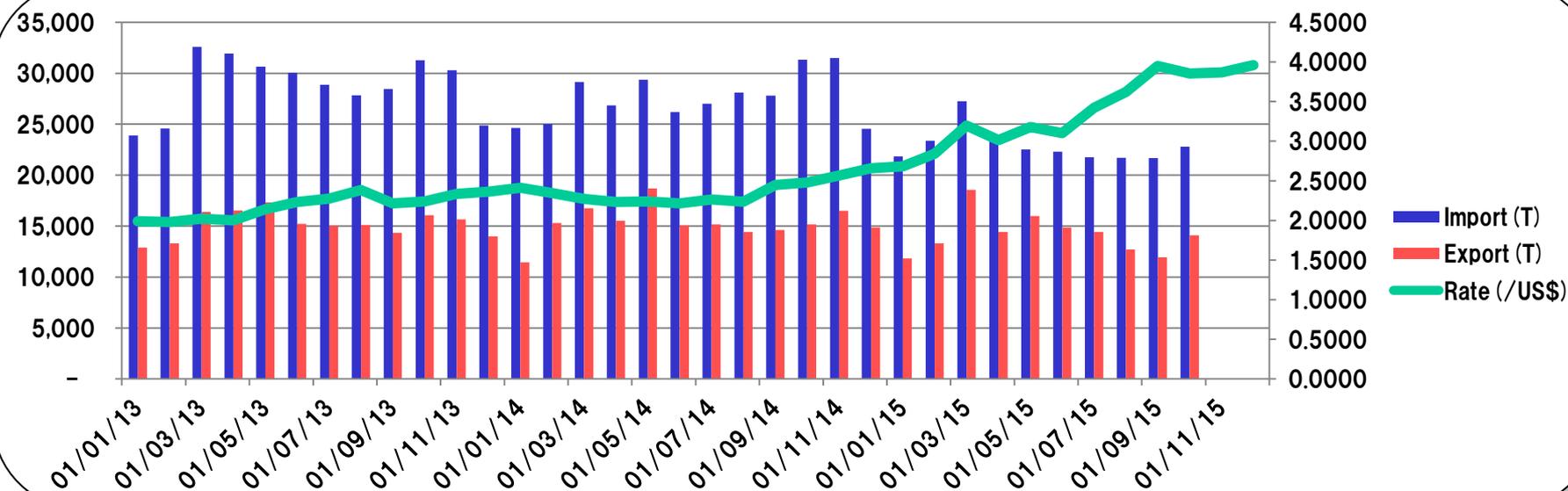
## 2015年回顧

- ・ 主要3空港での比較(GRU,VCP,Manaus)※1-10月実績比較  
輸入量は対前年同期比 ▲ 16.9 %  
輸出量は対前年同期比 ▲ 5.9 %

## 2016年展望

- ・ レアル安で、新たな輸出商品・産業が出てくることを期待。
- ・ オリンピック商戦に呼応した航空貨物需要に期待。

## GRU,VCP,MAO 3 空港 航空貨物輸出入取扱数量&為替動向 (単位: トン、対US\$)



# 航空旅客業界

## 2015年回顧

- 国内線は、年計で見ると座席拡大に応じて旅客増。  
有償旅客キロ＝対前年＋1.1%、提供座席キロ＝同＋1.0%、利用率＝0.1pt向上。  
下期のみではブラジル景気悪化影響で前年割れ。
- 国際線は、ブラジル航空会社計で、引き続き旅客が10%以上伸長。  
有償旅客キロ＝対前年＋13.8%、提供座席キロ＝同＋15.3%、利用率＝▲1.1pt
- ブラジル経済伸び悩みの影響で、日本へのデカセギ需要が徐々に増加。

## 2016年展望

- 国内線は、TAM航空やGOL航空の業績悪化に伴い、低需要路線を減便・運休する可能性が高く、2015年に比べて旅客数は横這い、もしくは低減すると想定。
- 国際線は、オリンピック・パラリンピックの開催に伴って海外からの旅行者は増えるが、ブラジル経済の低迷と為替の影響(レアル安)で、ブラジルからの出国者数は減少と予想。

## 特記・周知事項

- 新規就航 2015年 6月 全日空 成田⇄ヒューストン線  
2015年 11月 日本航空 成田⇄ダラス線  
※米経由日本行きの乗継空港の選択肢が増。
- サンパウロ国際空港のターミナル・ゲート番号の名称が変更。  
ターミナル IBT4⇒T1、IBT1・2⇒T2、T3⇒変更なし  
ゲート 番号が3桁(ターミナル番号+通し番号)
- 需給調整やコスト抑制による運休・減便、疫病(ジカ熱)による旅客流動の鈍化を懸念。

# 旅行・ホテル業界

## 2015年回顧

	2014年第1～3四半期		2015年第1～3四半期		比較	
	売上高（千）	発券枚数	売上高（千）	発券枚数	売上高	発券枚数
国内線航空券	R\$4,011,351	6,824,282	R\$4,290,564	7,715,175	+6.96%	+13.05%
国際線航空券	R\$2,860,663	965,106	R\$3,521,515	1,016,453	+23.10%	+5.32%
ホテル	R\$1,770,024		R\$1,682,929		-4.92%	

## 2016年展望

### プラス要因

- オリンピック・パラリンピックの開催 / ■オリンピック・パラリンピック期間中の観光査証免除
- ドル高レアル安（海外からの旅行者にとって）

### マイナス要因

- デング熱、ジカ熱などの感染症の流行/■景気低迷による治安の悪化/■ドル高レアル安（国内から海外への旅行者にとって）
- 旅行費用の海外送金額に対する25%の源泉徴収所得税（IRRF）の課税

（展望）ブラジルに来る海外旅行者の増加と海外旅行をあきらめ国内旅行にシフトするブラジル人の増加により、国内旅行はホテル、航空業界とも潤うことが見込まれる。

一方でブラジル人の海外旅行者は激減することが見込まれる。

## トピックス

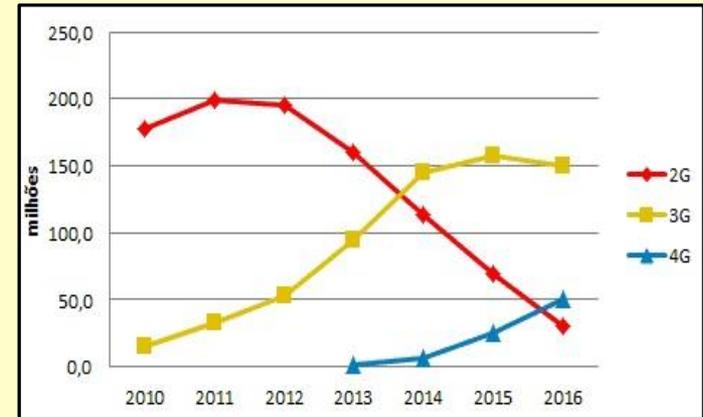
- 日伯間で、有効期限が最大3年で一回の滞在が最大90日のマルチ観光査証を相互に発給することを合意。ビザ免除に一步進んだ。

# 通信業界（携帯電話・モバイル）

## 2015年回顧

- 年々増加傾向にあった携帯電話契約数は、ブラジル経済の減速により8%減。
- 携帯電話の販売台数も景気後退の影響を大きく受け、特にフィーチャフォンの落ち込みが大きく全体として約2割減。しかしながらスマートフォン販売台数は堅調で、全体比率の9割近くになっている。
- 急速に2Gから3G/4Gへ移行が進んでいる。

	2013年	2014年	2015年
携帯電話契約数 [万]	27,110	28,073	25,779
普及率 [%]	134	138	125
プリペイド比率 [%]	78.0	75.8	71.5
スマートフォン販売台数比率 [%]	52	71	88



## 2016年展望と課題

- 2016年についても、景気低迷がしばらく続くとの予想から、携帯電話の加入者数および販売台数が上向き可能性は低い。ただ4Gに関しては、スマートフォンの販売増および2Gからの移行も手伝って今後も順調に契約数は増加する見通し。
- IoT/M2M関連のサービスの普及およびニーズの高まりに伴い、M2M専用のモバイル回線の契約数も増加する見通し。

# 通信業界（テレコム・データセンター）

## 2015年回顧

- インターネットユーザ数：1億1765万ユーザ（**世界第4位**）
- ブロードバンドのマーケットシェア：NET32%、Vivo29%、OI25%
- ブロードバンドアクセス数：2557万（2015年12月） 2014年同時期比較で9.4%UP
- インターネット普及率は約58%（**世界第81位**）
- Windows10のアップグレードなどアプリケーションの提供が従来のメディアからクラウド型へシフト

## 2016年展望と課題

- 通信業界再編が活発化、通信インフラ基盤の安定化、低廉化が期待され、今後、FTTH、FTTOが普及、利用が増加する見込み
- コモディティ化したICT要素（メール、サーバー等）はより柔軟でコスト効果の高いクラウド型（データセンター）へシフトが進むが、通信インフラ基盤の脆弱性がネック
- インターネットがビジネス基盤化する中、大都市中心部以外（郊外の工業団地等）で高速化/安定化/低価格化が求められている

\*技術者不足、人経費の高騰→IT専門家の確保の困難が慢性化

# IT業界（ハード、ソフト、サービス、インフラ）

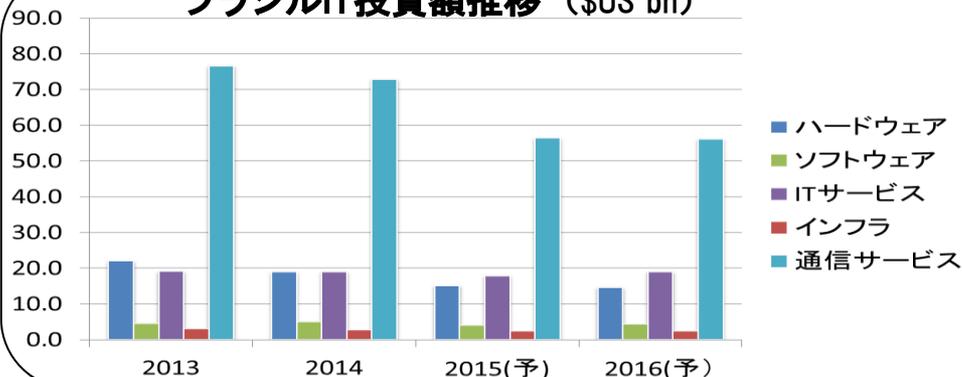
## 2015年回顧

- IT投資予想額は、ガートナーによるとUS\$125bnからUS\$95.8bnに下方修正、前年比5%増(IDC)。
- ハードウェアはレアル安もあり、輸入価格高騰の影響等により、販売低迷。
- ソフトウェアは、Windows Server 2003のサポート終了による買い替え需要、Windows 10も登場。
- ITサービスは、景気低迷であるが必要性は増大。
- 新規日本企業進出案件は減少、顧客からのコスト削減要求や既存案件の規模縮小要求は増加。
- 人件費等が年々増大する環境下、作業効率を向上させるための基幹システムの必要性が増大。

## 2016年展望

- IT投資予想額は、ガートナーによると前年比0.6%増のUS\$96.4bn、IDCによると前年比2.6%増。
- ハードウェア(前年比3.5%減)は、部品の大半が輸入品のため、レアル安がコスト増に繋がり、消費者へ転換した結果、買い控えが発生すると予想される。
- ソフトウェア(前年比5.4%増)やITサービス(前年比6.4%増)は、投資の先送りが見られる一方で、コスト抑制に寄与するSaaSやクラウドサービス、IoT等の先進的なサービス需要は引続き見込まれる。
- ITインフラ(前年比2.4%増)は、ITサービスに連動した需要が期待される。
- 人の動きが活性化し、モバイル需要が継続増大する傾向にある。また、3Dプリンターの浸透にも期待。
- 引き続き、優秀なIT人材の育成やIT専門家の確保、人件費の高騰への対応は大きな課題。
- 競争力強化に向けて、Big Data等を活用した情報の分析が基礎的な鍵となる。

### ブラジルIT投資額推移 (\$US bn)



出所: Gartner

	2013	2014	2015(予)	2016(予)
ハードウェア	22.0	18.9	15.1	14.6
ソフトウェア	4.6	5.0	4.1	4.3
ITサービス	19.1	18.9	17.9	19.0
インフラ	3.0	2.8	2.3	2.4
通信サービス	76.6	72.8	56.4	56.1
全体	125.2	118.5	95.8	96.4

## 景気低迷期だから見えてくるビジネス機会 ～経済回復期はいつか？ 日系企業はどう備えるか？～

### <経済回復期はいつか>

- ・ 今年1年は我慢の年。/ 2017年以降の景気回復に期待。
- ・ 回復は2020年と考えられる。

### <どう備えるか>

- ・ コスト削減や業務効率化に寄与するサービスに成長を期待。
- 回復までの期間に、マーケットで余剰となっている優秀な人材の発掘、既存人材、新規人材の教育、トレーニングを重点的に行い将来経済回復時に向けての体制の再構築を行う。
- ・ この状態を乗り切る為の新規事業領域の模索を継続的に行う事が必要。
- ・ ドル高騰により国内観光のチャンスも見出せるが、観光シーズン外のパッケージ企画に関して大きな想像力及び革新、販売促進策、製品、サービス及びプロセス等の開発が必要。
- ・ ブラジル及び欧米系の航空会社との協業事業を強化し、ブラジル＝日本間の路線網の拡大と乗継ぎの利便性向上を促進する。

**ご清聴有難う御座いました。**



**運輸サービス部会一同**

# (資料) 航空旅客

## (参考) 利用率について

A → B 路線の距離 10 km

A → C 路線の距離 100 km

項目	A → B	A → C	計
旅客数 (人)	80	50	130
座席数 (席)	100	100	200
占有率 (%)	80.0	50.0	65.0
RPK (旅客キロ)	800	5,000	5,800
ASK (座席キロ)	1,000	10,000	11,000
利用率 (%)	80.0	50.0	52.7

- 単体の路線では、占有率と利用率は同じ。
- 但し、路線距離が異なる複数路線を合算して利用率を示す場合は、旅客数と座席数のそれぞれに距離を乗じて算出する。

# (資料) 航空旅客

参考：ブラジルとの2国間の輸送実績（2015年版、年間10万人以上）

順位	路線	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)
1	サンパウロ＝ブエノスアイレス	1,570,707	4,303
2	サンパウロ＝マイアミ	1,310,697	3,591
3	サンパウロ＝サンティアゴ	1,064,475	2,916
4	サンパウロ＝ニューヨーク	764,282	2,094
5	サンパウロ＝マドリード	676,610	1,854
6	リオデジャネイロ＝ブエノスアイレス	577,120	1,581
7	サンパウロ＝パリ	573,153	1,570
8	サンパウロ＝オランダ	503,288	1,379
9	サンパウロ＝モンテビデオ	442,887	1,213
10	サンパウロ＝ロンドン	439,485	1,204
11	サンパウロ＝フランクフルト	432,833	1,186
12	サンパウロ＝ボゴタ	396,280	1,086
13	サンパウロ＝パナマ	394,539	1,081
14	サンパウロ＝リマ	366,037	1,003
15	リオデジャネイロ＝マイアミ	341,753	936
16	リオデジャネイロ＝パリ	329,370	902
17	リオデジャネイロ＝サンティアゴ	307,146	841
18	サンパウロ＝アスンシオン	293,678	805
19	サンパウロ＝リスボン	286,499	785
20	サンパウロ＝メキシコシティ	282,822	775
21	リオデジャネイロ＝ニューヨーク	245,706	673
22	サンパウロ＝アムステルダム	239,358	656
23	リオデジャネイロ＝リスボン	229,998	630
24	サンパウロ＝アトランタ	226,423	620

<トピックス>

- 米国との2国間旅客数が圧倒的に多く、全体の25.1%を占めている。
- 歴史的背景(含 移民政策)から、欧州諸国との旅客流動は大きい。

データ元：ANAC

# (資料) 航空旅客

## 参考：国際線路線別実績（2015年版、年間20万人以上）

順位	国名 (ブラジルとの2国間)	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)	シェア (%)
1	アメリカ	5,379,356	14,738	25.1
2	アルゼンチン	3,067,647	8,405	14.3
3	ポルトガル	1,419,333	3,889	6.6
4	チリ	1,408,546	3,859	6.6
5	スペイン	975,694	2,673	4.5
6	フランス	970,423	2,659	4.5
7	パナマ	925,300	2,535	4.3
8	ドイツ	844,153	2,313	3.9
9	ウルグアイ	618,583	1,695	2.9
10	イギリス	594,153	1,628	2.8
11	ペルー	563,457	1,544	2.6
12	イタリア	502,446	1,377	2.3
13	コロンビア	477,723	1,309	2.2
14	アラブ首長国連邦	426,374	1,168	2.0
15	オランダ	398,910	1,093	1.9
16	メキシコ	352,659	966	1.6
17	パラグアイ	304,322	834	1.4
18	カナダ	205,932	564	1.0
19	南アフリカ	169,937	466	0.8
20	ドミニカ共和国	169,450	464	0.8
21	スイス	160,256	439	0.7
22	ボリビア	148,729	407	0.7
23	カタール	130,150	357	0.6
24	アンゴラ	101,735	279	0.5

### <トピックス>

- サンパウロ=ブエノスアイレス間の旅客数は多く、年間約1,570千人を超える。
- 米国マイアミは非常に人気が高く、特に富裕層はマイアミのリゾートホテルで休日を過ごし、買物を楽しむ傾向にあり、利用旅客の大半が観光目的である。

### (注)

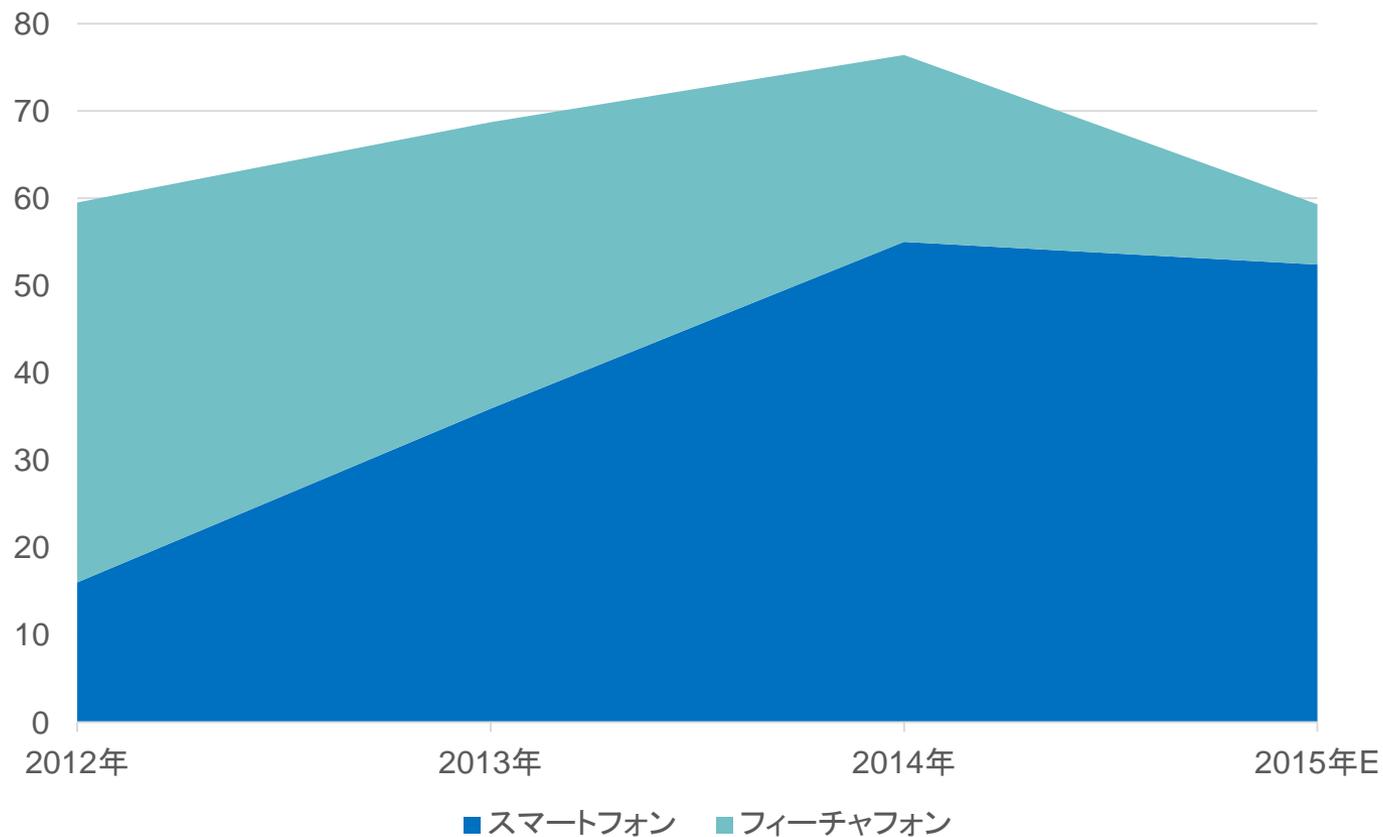
- サンパウロ … グアリュアリーヨス空港、ヴィラコッポス空港
- ブエノスアイレス … エセイサ空港、ホルヘ・ニューベリー空港
- マイアミ … マイアミ空港、フォートローダーデール空港
- ニューヨーク … JFK空港、ニューアーク空港

データ元：ANAC



# (資料) ブラジルにおける携帯電話の販売台数の推移

(単位: 百万台)



# (資料) 世界のインターネットユーザ数

インターネットユーザ数では、ブラジルは1億1700万ユーザで世界第4位、日本は次いで5位。

	国	2000年	2015年Q2
1 <sup>o</sup>	中国	22.500.000	674.000.000
2 <sup>o</sup>	インド	5.000.000	354.000.000
3 <sup>o</sup>	米国	95.354.000	280.742.532
<b>4<sup>o</sup></b>	<b>ブラジル</b>	<b>5.000.000</b>	<b>117.653.652</b>
5 <sup>o</sup>	日本	47.080.000	114.963.827
6 <sup>o</sup>	ロシア	3.100.000	103.147.691
7 <sup>o</sup>	ナイジェリア	200	92.699.924
8 <sup>o</sup>	インドネシア	2.000.000	73.000.000
9 <sup>o</sup>	ドイツ	24.000.000	71.727.551
10 <sup>o</sup>	英国	15.400.000	59.333.154
11 <sup>o</sup>	メキシコ	2.712.400	59.200.000
12 <sup>o</sup>	フランス	8.500.000	55.429.382